

MHI の前村技師長が資料 8-2-2(H- A # 14 打上げ)を 2 分余で説明した後、JAXA の河内山理事を加えて、5 分余の質疑応答があった。(打上げ当日大変な強風であり、また小型船舶が警戒水域に入った事も有り、3 度に亙って打上げ時刻を遅らせ、ローンチウィンドウの最後の処で打ち上げた。軌道投入精度は大変高かった。)

松尾:延期の処で、「及び」¹で二つ項目が挙がっておりますが、どちらがホントに引っ掛っちゃったんでしょうか。

MHI 前村:正確に申しますと、先ず最初の 16:20 から 16:55 は風で御座います。其の次の 17:50 への変更は、小型船舶の進入で御座います。最後 5 分間延ばしました。此れも風で御座います。

松尾:大変強かったと伺っておりますが、まあ、よう御座いました。

MHI 前村:有難う御座いました。ご心配をお掛けしました。

松尾:其れと、あの一、一辺セットした発射時刻を伸ばすと、その次再度打てるのはどれ位先になるんでしょうか。

MHI 前村:ええと、ご質問は、

松尾:例えば 16:20 なら 20 分と決めますね、其れを延期を例えば決めますね、例えば 5 分前に船が入って来たとか、そうすると次に再セットできるのは?

MHI 前村:今回は、衛星さんの方のインプットデータの制約が御座いまして、其の儘延ばせるのが 5 分間だった、

松尾:其の儘じっとして、で、其れを超えると再立ち上げが必要?

MHI 前村:其れを超えると、30 分ぐらい時間を下さいと云うのを WINDS さん側から言われておりました。

松尾:其れさえ無ければロケット側はかなり座ってられるんですね。

MHI 前村:はい、1 時間は、所謂、我慢出来ると云う事になって居ります。

松尾:解りました。どうも有難う御座いました。大変よう御座いました。

JAXA 本間:あの、若干衛星側から補足しますと、打上げが近付いて来ますと、衛星の電源をですね、其れまでは地上装置からラインで引いてるんですが、内部電源に切り替えます。要するに衛星のバッテリーを使った運用に切り替えます。で、打上げの時にはバッテリーを出来るだけフル充電で打上げたいと云う要求が有りますので、或る時間上、現在まあ 5 分間ありますが、それ以上延びますと今度は内部電源から外部電源にもう一回切返すって云う手順が有ります。其の為に先程お話しがあった様な時間を手順として必要として居ります。

松尾:それでは、...池上さん、何かあります。

池上:非常に風が強くてですね、最後の最後まで、上から見てますと 16.4 より大きいので、ヒヤヒヤした。あれは場所のファクターですね。あ、違ってまして、別の所でどうも測ってる様で御座います。

MHI 前村:いえ、あの一、風速制御はですね、あの、ロケットが立

¹ 強風と警戒区域に小型船舶が入った二つのこと。

っている塔が御座いますけれど、其処に二箇所風のデータがありまして、其れの大きい方、どちらか大きい方で制御をかけております。

JAXA 河内山:で、一般的な表示は其の傍に 80 メータのショートタワーが有るんですけど、其の 40 メーター点で一般的に示して居りまして、実際の打上げは今の様に。で、何処を見てるかで表示が少しずつ違っていると云う。

MHI 前村:今、理事が仰った気象塔の方が 1.4 倍ぐらい高く数値が出ます。

池上:あと、やっぱり風の向きも影響するんですか。

MHI 前村:はい、今回は北西の風でして、其れが一番風の制限としては大きい側でしたので、まあ、方向的にはラッキーだったという事で御座います。

池上:聞く所によると、ひょっとしたら駄目だったかも知れないと。

MHI 前村:駄目だったかも知れませんでした。

池上:5 時 55 分に若し 16.4 以上であれば、駄目だった。

MHI 前村:駄目だったです。あの一、スタッフは何時でも止められるように準備をしておりました。

池上:非常にヒヤヒヤ。確かに屋上に立っててもですね、体が止まらない位風が強く吹いたんですよ。心配をして居りました。

松尾:まあ、ヒヤヒヤされた事だけは良く分かる訳ですけど、情報的には余り不安を協調させないで頂きたいと思います。

青江:此の経過時間、それから近地点、遠地点の高度も、これ物凄く近いと言いましょ、此れ、こんなに何時も近かった、

近値(?)してましたっけ。物凄く良い事ないですか。今回。

MHI 前村:いや、あの一、大体 H- A はですね、

青江:こんなものでしたっけ。

MHI 前村:はい、あの一、IMU は非常に性能が良いもんですから、

青江:今回特に良いと云う訳じゃあない。此の数値が。

MHI 前村:良い方ですけども、大体何時も 0.0 幾つ、何とか、そう云ったオーダーで、はい。最大、遠地点でも 200 キロ位の誤差で、

青江:此の、こう云った正確な数値と言いましょ、此れはやっぱり、その、所謂、コマーシャルな世界でも、非常に評価が高くなるもんですか？此の良い数値は。

MHI 前村:はい、そうで御座います。前回の SELENE の場合も、非常に精度が良かったものですから、衛星の方の推進薬が余裕が出来たと云う事です。

青江:云う事で、まあ、あの一、非常に商売の上でアドバンテージになると。

MHI 前村:はい、仰る通りで御座います。

更に、JAXA の本間氏が資料 8-2-1 (WINDS の運用状況) を 4 分ほどで説明した後、質問は無かった。

松尾:宜しゅう御座いますか。まあ、先は長ごう御座いますけど、一つ頑張って下さい。